

2023年3月8日（水）

社会全体で生理痛の理解が深まることを目指す 「みんなの生理痛プロジェクト」始動

「ロキソニンSプレミアムファイン」新発売に合わせ

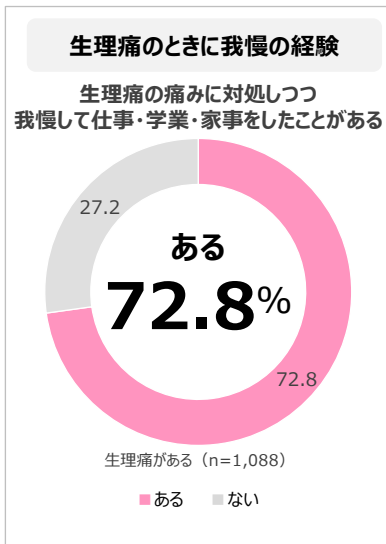
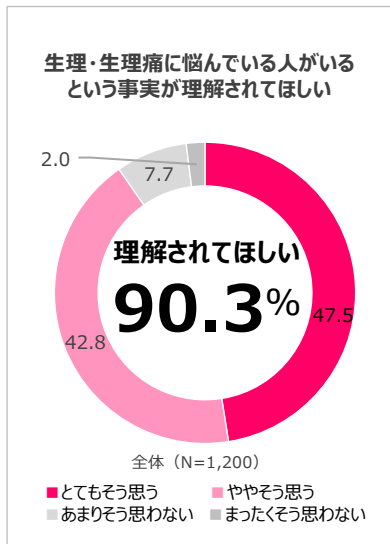
石原さとみさん起用のブランドメッセージ広告を3月8日（水）から展開



第一三共ヘルスケア株式会社（本社：東京都中央区、以下「当社」）の解熱鎮痛薬ブランド「ロキソニン」は、生理痛のメカニズムに着目した新製品「ロキソニンSプレミアムファイン」発売日である2023年3月8日（水）に、「みんなの生理痛プロジェクト」を始動します。本プロジェクトは、生理痛に悩む女性はもとより、社会全体に「生理痛との正しい向き合い方」を発信するものです。

当社が実施した調査※では、20～49歳の生理がある女性のうち約9割の方が「生理・生理痛に悩んでいる人がいるという事実が理解されてほしい」と望んでいることが分かりました。また、「生理痛がある」方の7割強が「痛みに対処しつつ、我慢して仕事・学業・家事をしたことがある」と回答しています。このような背景から、「痛み悩む女性により自分に合った対処法を見つけられること」、「周囲が思いやりを持ってサポートできること」、「社会全体で生理痛への理解が深まること」を目指し、石原さとみさん起用のブランドメッセージ広告の展開をはじめとして複数のコンテンツから構成される本プロジェクトをスタートします。

2023年第1弾調査※より



ブランドメッセージ広告



※「みんなの生理痛プロジェクト」2023年第1弾調査より
●調査対象：20代～40代の生理がある女性1,200人（年代別均等回収）
●調査期間：2023年1月13日（金）～1月15日（日）

なお本リリースでは、「みんなの生理痛プロジェクト」第1弾として展開する下記コンテンツの概要を紹介します。

- ブランドメッセージ広告「#生理痛を甘く見ないでほしい」
- 「みんなの生理痛プロジェクト」プロジェクトサイト公開
- 「みんなの生理痛プロジェクト」2023年第1弾調査

プロジェクトサイトではより多くの方に生理痛への理解を深めていただくために、医師・薬剤師のインタビューや鎮痛薬に関する不安解消のための情報などを発信いたします。また今後も継続して多様なコンテンツを拡充予定です。

■ 背景

生理痛のメカニズムに着目した新製品「ロキソニンSプレミアムファイン」を発売するにあたり、女性をエンパワメントする「国際女性デー」に合わせて、ブランドメッセージ広告を展開します。

このメッセージには、生理痛の症状や重さ、悩みには個人差があることを社会全体で理解し、悩んでいる方への思いやりが広がってほしいとの願いを込めています。さらに、悩みを抱える方に対しては「生理痛くらいで」と思わず、鎮痛薬の正しい使用も含む対処法の中から自分に合ったものを選んでいただくとともに、婦人科受診を検討いただきたいとの思いを込めたメッセージです。なお、ブランドメッセージは、プロジェクトサイトでご覧いただけます。

プロジェクトサイトURL https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/site_loxonin-s/special/project/

■ 展開予定

新聞： ●3月8日「朝日新聞」朝刊全国版全15段 ●3月8日「日本経済新聞」朝刊全国版全15段

雑誌： ●3月8日「an・an」 ●3月9日「MEN'S NON-NO」 ●3月10日「mini」

●3月14日「日経ヘルス」 ●3月17日「美ST」「リンネル」 ●3月20日「non-no」

●3月22日「美的」「VoCE」「MAQUIA」 ●3月23日「CanCam」「SPRING」「ViVi」

●3月28日「otona MUSE」「CLASSY.」「GLOW」「BAILA」「Hanako」「MORE」

■ 石原さとみさん スペシャルインタビュー

「生理痛を甘く見ないでほしい」というメッセージはすごくシンプルですが、深いものだと感じました。男性に対してだけではなく、生理痛に悩む女性たちにも向けられている。痛みは見えないから、共感したり、想像したりすることはすごく難しいと思います。月経困難症※は痛み以外にもさまざまな不調が現れるため、それが月に1度、数日間やってくるという大変さや深刻さが伝わるメッセージだと思いました。

生理痛に関して私自身は、病院に行ったことで本当に助けられました。勇気を出して病院に行き検査を受けたら原因が分かったんです。すごく親身に相談に乗っていただいて、受診して良かったと心から思います。痛いつて当たり前じゃないし、我慢することって普通じゃない。生理痛に悩んでいる方がいらっしゃったら、ぜひ我慢せずに適切な対処（鎮痛薬を正しく使う選択肢や婦人科受診）をしていただきたいと思います。そして、周りの人にも生理痛の理解が広まり、悩んでいる人が適切な対処をすることを推進するような社会になっていくといいなと願っています。

※生理（月経）に伴って起こる病的症状で、日常生活に支障を来すもの。主な症状は下腹部痛、腰痛、頭痛、吐き気、疲労・脱力感、イライラなど。



石原さとみさん

1986年12月24生まれ。東京都出身。第27回ホリプロタレントスカウトキャラバン「ピュアガール2002」でグランプリを受賞し、本格的に女優活動をスタート。2003年、映画デビュー作「わたしのグランパ」で、第27回日本アカデミー賞新人俳優賞をはじめ数々の映画賞を受賞し、以後、さまざまな映画やドラマで活躍。近年の出演作は、映画「決算！忠臣蔵」（2019年）、ドラマ「アンナチュラル」（2018年）、ドラマ「Heaven? ～ご苦楽レストラン～」(2019年)、舞台「アジアの女」（2019年）、ドラマ「アンサンブル・シンドレラ 病院薬剤師の処方箋」（2020年）、舞台「終わりよければすべてよし」、ドラマ「恋はDeepに」（2021年）主演、映画「そして、バトンは渡された」（2021年）。

ブランドメッセージ広告撮影時のインタビュー・メイキング映像は以下URLよりご覧いただけます。

https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/site_loxonin-s/special/project/interview/

■ プロジェクトサイト概要

プロジェクト始動にあたり、より多くの方に生理・生理痛への理解を深めていただくためのコンテンツとして、プロジェクトサイトをオープンします。ブランドキャラクター石原さとみさんに加えて、産婦人科医の高尾美穂先生、宋美玄先生、重見大介先生、薬剤師の鈴木伸悟先生による「スペシャルインタビュー」や、痛みと鎮痛薬に正しく向き合っていただくためのコンテンツ「知っておきたい！鎮痛薬のウソ・ホント」を展開します。

プロジェクトサイトURL https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/site_loxonin-s/special/project/



■ 知っておきたい！鎮痛薬のウソ・ホント

当社が実施した調査※で、生理痛のために鎮痛薬を服用することについて、対象者1,200人のうち4人に3人が「鎮痛薬は飲みすぎると依存しやすくなる」（74.8%）と回答。さらに、対象者全員に鎮痛薬を飲むべきタイミングを聞くと、「痛みがいつもよりひどいとき」（38.7%）、「痛みが耐えられないほど強いとき」（32.8%）と回答する方もいました。そこで、鎮痛薬を正しく使っていただくために、鎮痛薬のギモンや不安を解消するコンテンツをQA形式で用意しました。

※「みんなの生理痛プロジェクト」2023年第1弾調査より

■ 「みんなの生理痛プロジェクト」担当者コメント

「みんなの生理痛プロジェクト」の始動にあたり、社内でも生理・生理痛の理解を深めるために、婦人科医の先生による動画研修を実施しました。また、社員の声を受けて花王株式会社の生理用品ブランド「ロリエ」が展開するプロジェクト『職場のロリエ』の協力のもと、女性用トイレに生理用ナプキンをテスト設置するなど、職場での新しい取り組みを行っています。

「職場のロリエ」テスト導入について

- テスト対象者：第一三共ヘルスケア日本橋ビル、神田和泉町ビルに勤務する女性社員
- 開始日：2023年2月21日
- 設置物：生理用ナプキン
- 協力：花王『職場のロリエ』
- <https://www.kao.co.jp/laurier/project/shokuba/>



土合桃子（どあい ももこ）

第一三共ヘルスケア マーケティング部ロキソニン内服薬ブランドマネジャー

第一三共ヘルスケアの解熱鎮痛薬「ロキソニン内服薬シリーズ」のブランドマネジメントを担当。つらい痛み悩んでいる方のQOL（生活の質）向上に貢献したいという思いで、薬を正しく使っていただくための啓発活動に取り組んでいる。

みんなの生理痛プロジェクト

「みんなの生理痛プロジェクト」2023年第1弾調査

「みんなの生理痛プロジェクト」2023年第1弾調査として実施した、生理や生理痛に関する実態調査の結果概要をご紹介します。当調査では、女性の9割が生理痛があるとき何らかの我慢をしていることや、「これまで我慢してきたから」「我慢するのが当たり前」など、我慢が当然と思い込んでいる女性が多い実態が明らかになりました。なお、この調査結果は「みんなの生理痛プロジェクト」プロジェクトサイトでもご確認いただけます。

プロジェクトサイトURL https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/site_loxonin-s/special/project/

TOPIC 1

生理痛があるとき、女性の9割強が我慢をしている

6-7p

- ◆ 生理痛がある女性の60.4%が「生理痛は重い」と自覚するも、生理痛の原因を「十分理解」しているのは30.9%。
- ◆ 生理痛があるとき、91.7%が何らかの「我慢」をし、20代では54.9%が「何の対処もせずただ我慢」している。
- ◆ 生理痛を我慢する理由は、「これまで我慢してきたから」（37.9%）、「我慢するのが当たり前」（28.7%）。
- ◆ 生理痛が重いと自覚する人ほど「これまで我慢してきた」「我慢するのが当たり前」という理由で我慢する割合が高い。
- ◆ 生理痛の弊害、「やる気がしない」「集中力が続かない」「思うように仕事・学業・家事が進まない」。
- ◆ 生理痛は当事者が辛だけでなく、周りの人や社会全体にダメージを与えてしまう可能性も。

TOPIC 2

生理痛のある女性の7割が「病院を受診したことがない」

8-10p

- ◆ 生理痛対策のTOP3、「横になる・寝る」（63.4%）、「温める」（62.8%）、「市販の鎮痛薬」（60.8%）。
- ◆ 効果が高い対策TOP3、「病院で処方された鎮痛薬」「市販の鎮痛薬」「病院で処方された鎮痛薬以外の薬」。
- ◆ 生理の痛みを0～10で表すと、普段の生理痛は「5.1」。鎮痛薬を服用するときの痛みは「5.9」、仕事を休むのは「7.5」と、痛みを我慢している傾向が明らかに。
- ◆ 市販の鎮痛薬の適切な服用タイミングは「痛みが出始めたとき」だが、正しく服用できているのは4割未満。
- ◆ 生理痛対策としての鎮痛薬の服用は「正しく服用することで痛みをコントロールできる」と81.0%が支持するも、「飲み過ぎると依存しやすくなる」（74.8%）、「なるべく頼りたくない」（72.3%）という意見も7割。
- ◆ 生理・生理痛の悩みは「女性だから仕方がない」（57.6%）と約6割が諦めの気持ちを抱えている。
- ◆ 生理痛のある女性の3割は生理痛を「誰にも相談しない」、7割は「医療機関を受診したことがない」（72.4%）。

TOPIC 3

女性の9割が生理痛を「知ってほしい」「理解してほしい」

11p

- ◆ 女性の9割が「生理・生理痛が重くて日常生活に支障を来すほどの人がいることを知ってほしい」（90.9%）、「生理・生理痛に悩んでいる人がいるという事実が理解されてほしい」（90.3%）。
- ◆ 生理・生理痛の悩みを「職場や学校」（84.6%）、「家族・パートナー」（83.6%）といった、日常生活で身近に関わる人に理解してほしいとの声が多く見られる。

「みんなの生理痛プロジェクト」2023年第1弾調査 調査概要 ※調査結果詳細は「ご参考」資料もご覧ください

- 調査期間：2023年1月13日（金）～1月15日（日） ● 調査機関：楽天インサイト
- 調査方法：インターネット調査 ● 調査対象：20代～40代の生理がある女性1,200人

製品紹介

2023年3月8日（水）新発売「ロキソニン®Sプレミアムファイン」

「ロキソニン®Sプレミアムファイン」は、つらい生理痛のメカニズムに着目した独自処方の鎮痛薬で、しめつけられるような下腹部の痛みや、生理に伴う頭痛、血行不良・冷えに伴う腰痛に速くよく効きます。



◇製品特長：

- 痛みをすばやく抑える鎮痛成分「ロキソプロフェンナトリウム水和物」と、つらい生理痛のメカニズムを考えた成分（シャクヤク乾燥エキス・ヘスペリジン）をダブル配合。痛みの原因と悪化要因を考えた独自の処方設計で生理に伴う痛みによく効きます。
- 胃を守る成分※1を配合し、胃への負担を軽減します。
- 眠くなる成分※2やカフェインを含まないので、仕事前やお休み前などタイミングを気にせず服用いただけます。
- 飲みやすい小型の錠剤です。

ブランドサイトURL https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/site_loxonin-s/naifuku/

◇分類：OTC医薬品（第1類医薬品）

◇効能・効果：

- 月経痛（生理痛）・頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛
- 悪寒・発熱時の解熱

※この医薬品は、薬剤師から説明を受け、「使用上の注意」をよく読んでお使いください。アレルギー体質の方は、必ずご相談ください。

※1：メタケイ酸アルミン酸マグネシウム ※2：鎮静成分等

■「ロキソニン®内服薬シリーズ」について

「ロキソニン内服薬シリーズ」は、その速効性とすぐれた効きめで、痛みの悩みとたたかう一人ひとりの不安や悩みをやわらげ、より良い活動がおくれることを目指して、解熱鎮痛成分「ロキソプロフェンナトリウム水和物」を配合し開発されています。2011年にスイッチOTC医薬品※3として誕生して以降ラインアップを拡充、現在までに内服薬シリーズとして累計出荷個数1.3億個を突破※4しました。解熱鎮痛薬のリーディングブランドとして、痛みで悩む一人でも多くの生活者のQOL向上に、今後も貢献していきます。

※3：医師の診断・処方せんに基づき使用されていた医療用医薬品を、薬局・薬店などで購入できるように転用（スイッチ）した医薬品のこと。

※4：2011年1月～2023年2月 ロキソニン内服薬シリーズ累計出荷個数（第一三共ヘルスケア調べ）

■第一三共ヘルスケア株式会社について

第一三共ヘルスケアは、第一三共グループ※5の企業理念にある「多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する」という考えのもと、生活者自ら選択し、購入できるOTC医薬品の事業を展開しています。

現在、OTC医薬品にとどまらず、スキンケアやオーラルケアへと事業領域を拡張し、コーポレートスローガン「Fit for You 健やかなライフスタイルをつくるパートナーへ」を掲げ、その実現に向けて取り組んでいます。

こうした事業を通じて、自分自身で健康を守り対処する「セルフケア」を推進し、誰もがより健康で美しくあり続けることのできる社会の実現に貢献します。

※5：第一三共グループは、イノベーション医薬品（新薬）・ジェネリック医薬品・ワクチン・OTC医薬品の事業を展開しています。

みんなの生理痛プロジェクト

「みんなの生理痛プロジェクト」2023年第1弾調査 詳細

「みんなの生理痛プロジェクト」に先駆け、20代～40代の生理がある女性1,200人を対象に、生理痛に関する調査を行いました。

TOPIC 1

生理痛があるとき、女性の9割が我慢をしている

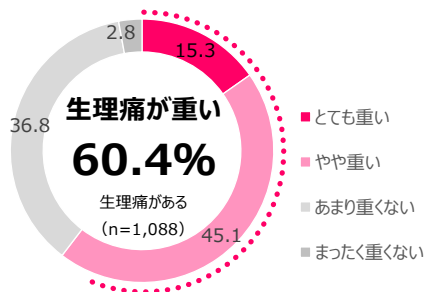
- ◆ 生理痛がある女性の6割が自身の「生理痛は重い」と感じている
- ◆ しかし、自身の生理痛の強さや原因を「十分理解」しているのは3割にとどまる

生理がある女性1,200人のうち、「生理痛はない」と答えた112人を除く1,088人※に、自身の生理痛がどの程度重いと感じるか聞きました。すると、15.3%が「とても重い（日常生活に支障を来すほどつらい症状が出ることが多い）」、45.1%が「やや重い（日常生活に支障はないが、症状を感じる頻度は多い）」と答え、60.4%は「生理痛が重い」と感じています【グラフ1】。 ※生理痛について誰かに相談するか？もしくは生理痛のときの対策は？という設問で「生理痛はない」と答えた112人を除く（以下同）

しかし、自身の生理痛の強さや原因について、どの程度理解しているかと聞くと、「十分理解している」と答えた人は30.9%しかいませんでした【グラフ2】。

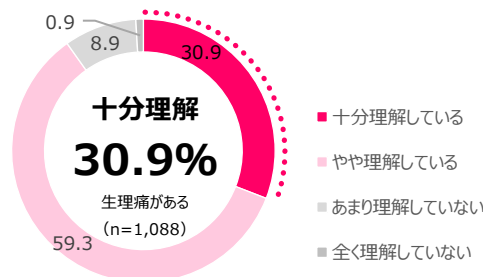
【グラフ1】自身の生理痛について

どの程度「重い」と感じるか？



【グラフ2】自身の生理痛の「強さや原因」について

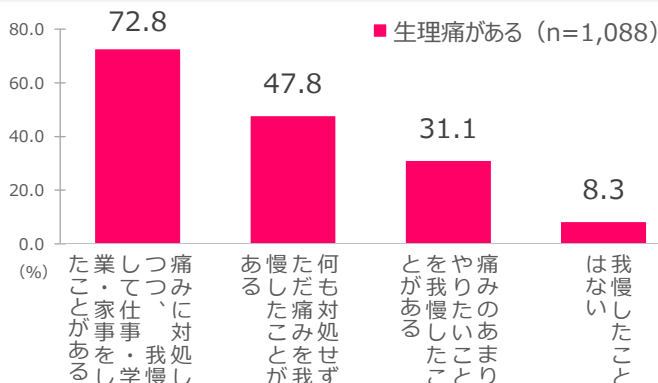
どの程度理解しているか？



- ◆ 生理痛があるとき、91.7%が何らかの「我慢」をしている
- ◆ 20代では5割以上が「何の対処もせずただ我慢」

生理痛がある人に、生理痛のときの我慢の経験を聞きました。すると、72.8%が「痛みに対処しつつ我慢して仕事・学業・家事をしたことがある」、47.8%が「何も対処せずただ痛みを我慢したことがある」、31.1%が「痛みのあまり、やりたいことを我慢したことがある」と答えました。さらに「我慢したことはない」と答えた人は8.3%しかおらず、91.7%が生理痛のときに何らかの我慢をしていました。年代別に見ると、20代は54.9%が「何も対処せずただ痛みを我慢したことがある」と答えており、対処をせずに我慢する割合が高くなっています【グラフ3】。

【グラフ3】生理痛のときに我慢の経験はあるか？（複数回答）



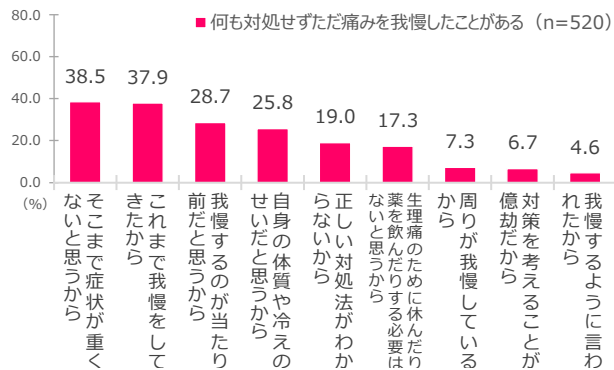
年代	業・学・家事に我慢しながら痛みを我慢したことがある (%)	何も対処せずただ痛みを我慢したことがある (%)	痛みのあまり、やりたいことを我慢したことがある (%)	我慢したことはない (%)
20代 (n=370)	71.1	54.9	30.3	7.6
30代 (n=369)	75.9	47.2	34.4	8.1
40代 (n=349)	71.3	41.0	28.4	9.2

- ◆ 生理痛に対し何もせず我慢する理由、「これまで我慢してきた」「我慢するのが当たり前」だから
- ◆ 生理痛が重いと自覚する人ほど、「これまで我慢してきた」「我慢するのが当たり前」と我慢スコアが高い

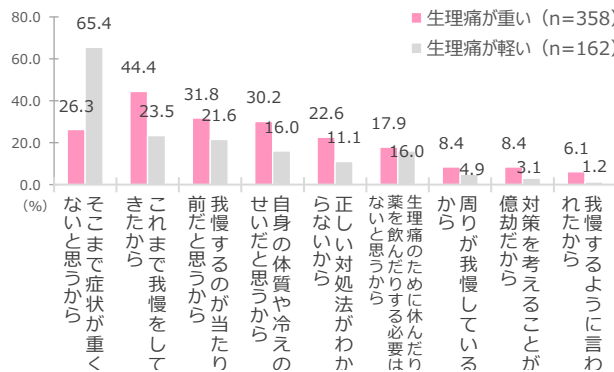
グラフ3で生理痛があるときに「何も対処せずただ痛みを我慢したことがある」と答えた520人に我慢する理由を聞きました。すると、「そこまで症状が重くないと思う」(38.5%)、「これまで我慢してきたから」(37.9%)、「我慢するのが当たり前だと思うから」(28.7%)などの意見とともに、「周りが我慢しているから」(7.3%)、「我慢するように言われたから」(4.6%)など我慢しなくてはいけないことという他者の意識・行動に影響を受けている人もいます【グラフ4-1】。

また、生理痛を我慢する理由を自身の生理痛が「重い」と自覚している人と、「軽い」と自覚している人とで比較してみました。すると、自身の生理痛が「重い」と自覚している人では「これまで我慢してきたから」は生理痛が「軽い」と答えた人よりも、2倍近い割合でした。他には「我慢するのが当たり前」「周りが我慢している」「我慢するように言われた」の割合も、生理痛が「重い」と自覚している人の方が高い結果でした【グラフ4-2】。

【グラフ4-1】生理痛を我慢する理由（複数回答）



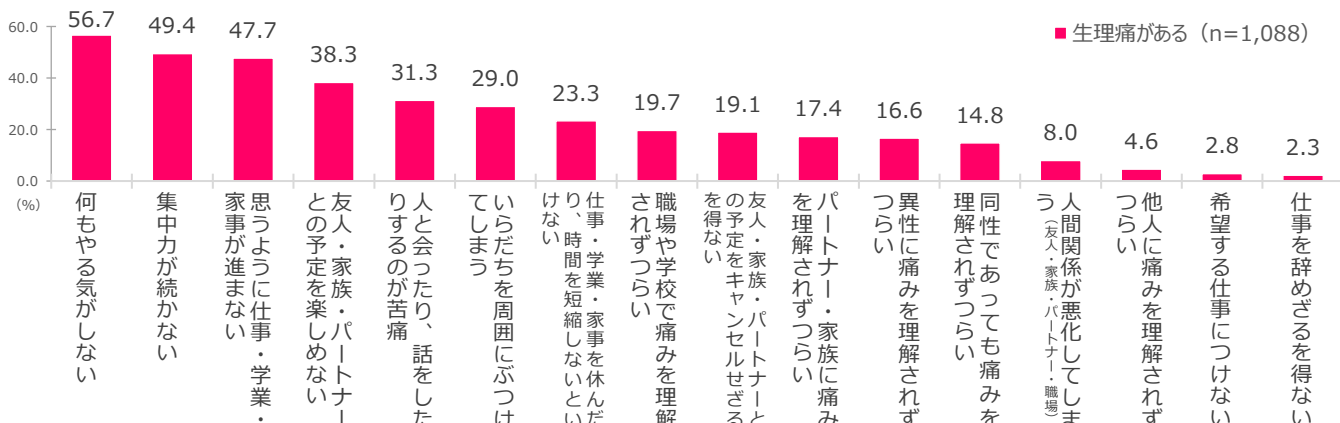
【グラフ4-2】生理痛「重い」「軽い」自覚別（複数回答）



- ◆ 生理痛の弊害は「やる気がしない」「集中力が続かない」「思うように仕事・学業・家事が進まない」
- ◆ 当事者がつらいだけでなく、周りの人にも社会全体にもダメージを与えてしまう可能性も

生理痛がある人に、生理痛による弊害を聞くと、「何もやる気がしない」(56.7%)、「集中力が続かない」(49.4%)、「思うように仕事・学業・家事が進まない」(47.7%)が上位に挙げられました【グラフ5】。これらの弊害が、周囲の人や社会活動にまで影響していることは想像に難くありません。生理痛という個人のダメージは社会全体のダメージにつながる可能性を示唆する結果といえるでしょう。

【グラフ5】生理痛による弊害は？（複数回答）



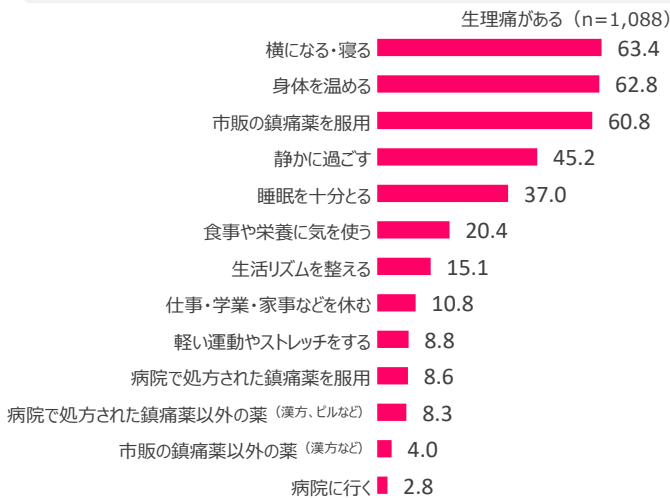
TOPIC 2

生理痛のある女性の7割が「病院を受診したことがない」

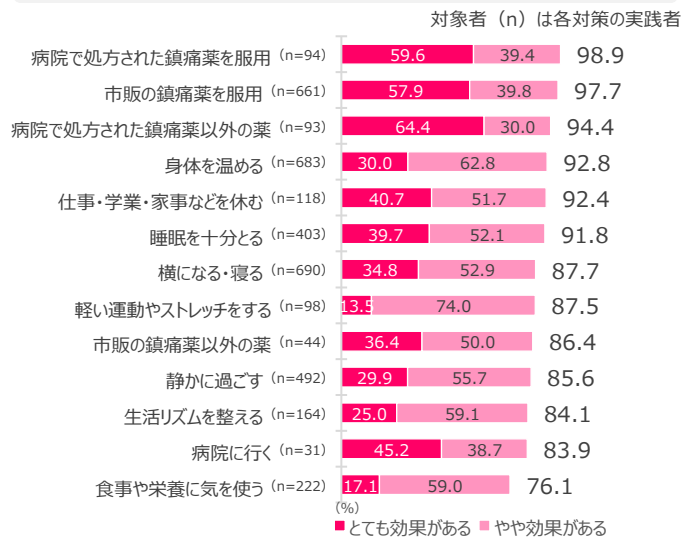
- ◆ 生理痛の対策として実践TOP3は「横になる・寝る」「温める」「市販の鎮痛薬」
- ◆ 効果が高いTOP3は「病院で処方された鎮痛薬」「市販の鎮痛薬」「病院で処方された鎮痛薬以外の薬」

生理痛の対策として普段行っていることを聞くと、TOP3は「横になる・寝る」(63.4%)、「温める」(62.8%)、「市販の鎮痛薬」(60.8%)でした [グラフ6]。また、各対策の効果について「とても効果がある」「やや効果がある」と答えた人が多かったものは、「病院で処方された鎮痛薬を服用」(98.9%)、「市販の鎮痛薬を服用」(97.7%)、「病院で処方された鎮痛薬以外の薬を服用(漢方、ピルなど)」(94.4%)となりました [グラフ7]。

【グラフ6】生理痛のときに行っている対策は？(複数回答)



【グラフ7】生理痛のときに行っている対策の効果は？

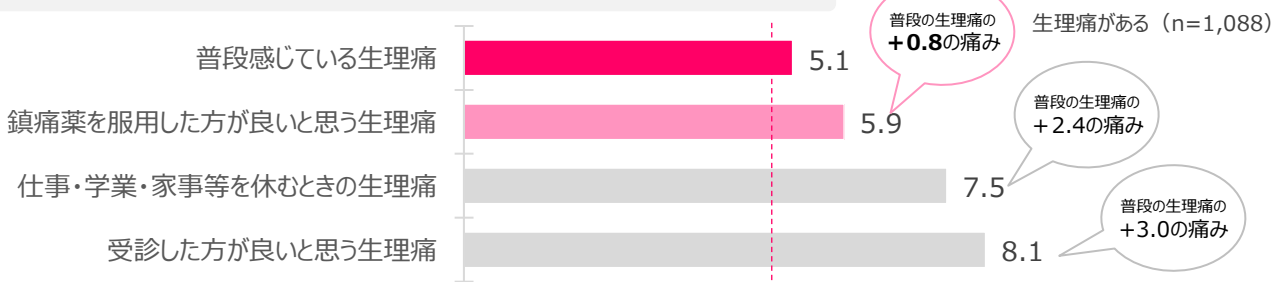


グラフ7は、グラフ6で「実践している」と答えた人を対象に、その対策の効果を「とても効果がある」「やや効果がある」「あまり効果はない」「まったく効果はない」の4段階で聞き、「とても効果がある」「やや効果がある」と答えた人数の割合を示しています

- ◆ 生理の痛みを0~10で表すと、普段の生理痛の痛みは5.1
- ◆ 鎮痛薬を服用するときの痛みは5.9、仕事・学業・家事等を休むときの生理痛の痛みは7.5

生理痛がある女性1,088人に、生理痛の痛みを「0：痛みがまったくない」～「10：もっともつらい痛み」として示してもらい、平均値を算出しました。その結果、普段感じている生理痛の痛みは平均5.1でした。「鎮痛薬を服用した方が良い」と思う生理痛の痛みは5.9(普段の生理痛の痛みの+0.8スコア)、「仕事・学業・家事等を休むとき」の生理痛の痛みは7.5(普段の生理痛の痛みの+2.4スコア)、「受診した方が良い」と思う生理痛の痛みは8.1(普段の生理痛の痛みの+3.0スコア)となりました。普段の生理痛の痛みでは休んだり、病院に行くこともなく、鎮痛薬の服用ですら痛みが強まってからのようです。この結果からも、女性が生理痛を我慢する傾向にあることが見て取れます [グラフ8]。

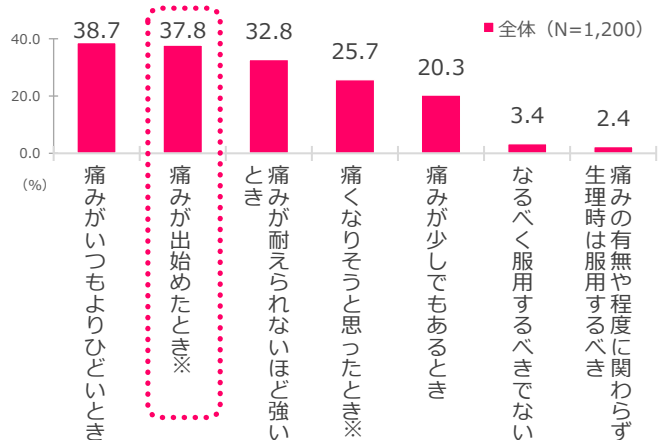
【グラフ8】生理痛の痛みの平均値(0：痛みがまったくない～10：もっともつらい痛み)



◆ 市販の鎮痛薬の適切な服用タイミングは「痛みが出始めたとき」。正しい回答は4割未満

調査対象である生理がある女性1,200人に、生理痛に関してどのような症状のときに鎮痛薬を服用すべきかと聞くと、「痛みがいつもよりひどいとき」(38.7%)、「痛みが耐えられないほど強いとき」(32.8%) など我慢できないときに鎮痛薬を服用する人が多い一方、「痛くなりそうと思ったとき」(25.7%) という、痛みの予兆で服用するという人もいます※ [グラフ9]。鎮痛薬の服用基準は、人それぞれでかなりばらつきがあるようです。

[グラフ9] 生理痛で鎮痛薬を服用すべきとき (複数回答)



※市販の鎮痛薬の場合は『痛みが出始めたとき』が適切なタイミングとなり、『痛くなりそうと思ったとき』は誤った服用タイミングとなります。詳しくは製品の添付文書などを参照してください。

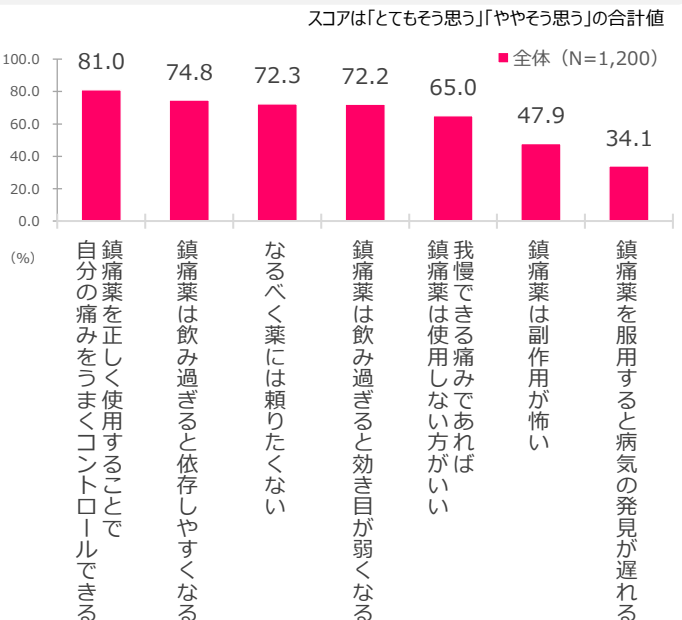
◆ 生理痛対策としての鎮痛薬の服用は「正しく服用することで痛みをコントロールできる」と8割が支持

◆ 一方で、「飲み過ぎると依存しやすくなる」「なるべく頼りたくない」という意見が7割越え

調査対象である生理がある女性1,200人に、生理痛のために鎮痛薬を服用することに関する意見を「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4段階で聞きました。

「とてもそう思う」「ややそう思う」と答えた人が81.0%と、最も多かったのが「正しく服用することで自分の痛みをうまくコントロールできる」でした。しかし、「鎮痛薬は飲み過ぎると依存しやすくなる」(74.8%)、「なるべく薬には頼りたくない」(72.3%)、「鎮痛薬は飲み過ぎると効き目が弱くなる」(72.2%) と思っている人も7割を超えています。また、65.0%の人は「我慢できる痛みであれば鎮痛薬は使用しない方がいい」と答えています [グラフ10]。鎮痛薬に対する「漠然とした不安」や「誤った認識」が、我慢をしてしまう一因にあるようです。

[グラフ10] 生理痛のために鎮痛薬を服用することに対する意見



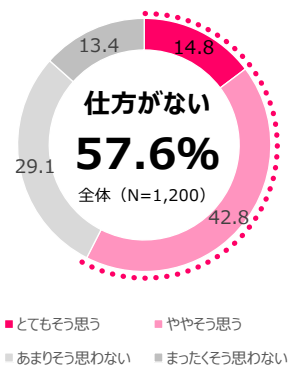
- ◆ 生理・生理痛の悩みは「女性だから仕方がない」と6割近くが諦めの気持ちを抱えている
- ◆ 生理痛に対し3割は「誰にも相談しない」。自身の生理・生理痛への「対処は十分ではない」と半数が認識

調査対象である生理がある女性1,200人に生理や生理痛に対する気持ちを聞くと、57.6%が「生理・生理痛の悩みは女性だから仕方がない」と答えています [グラフ11]。

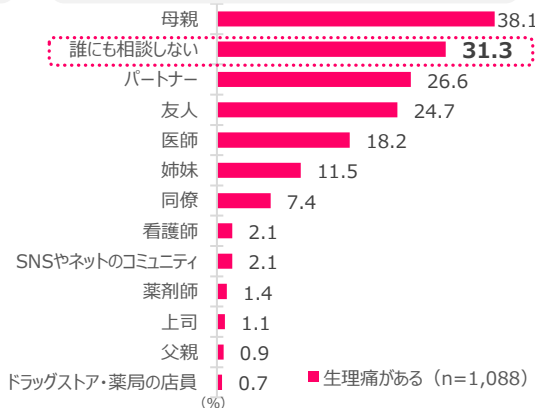
また、生理痛について相談する相手を聞くと、約3割が「誰にも相談しない」(31.3%)と答え [グラフ12]、約5割が「自身の生理・生理痛への対処は十分ではないと思う」(51.8%)と答えています [グラフ13]。

生理や生理痛に関しては、十分な対処はできていないと分かっているにもかかわらず、女性だから仕方がないと諦めているようです。

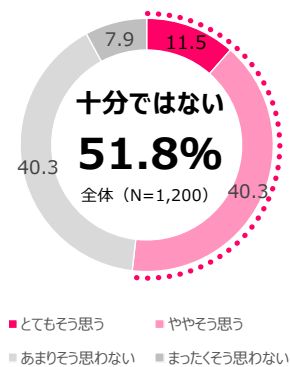
[グラフ11] 生理・生理痛の悩みは女性だから仕方がない



[グラフ12] 生理痛を相談する相手 (複数回答)



[グラフ13] 自身の生理・生理痛への対処は十分ではない

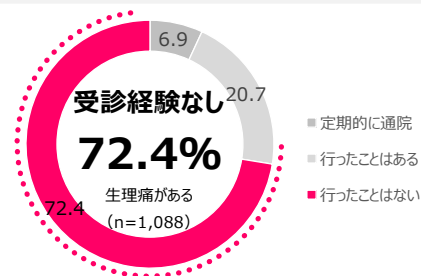


- ◆ 女性の7割は生理痛で病院を受診したことがない
- ◆ 受診しない理由は、「病院に行くほどの痛みではない」から

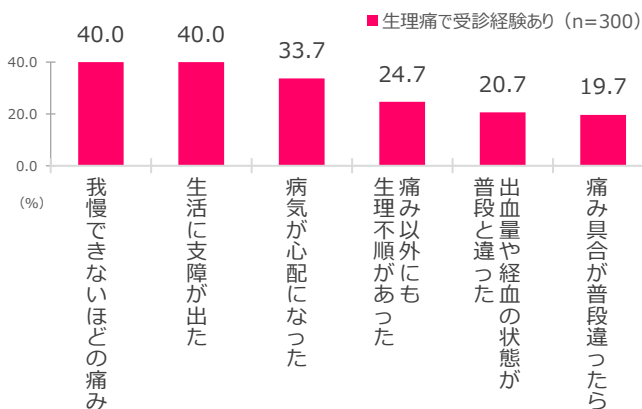
生理痛がある女性に、生理痛のために病院に行った経験を聞くと、72.4%は「行ったことはない」と答えました [グラフ14]。生理痛で受診経験がある人に病院に行った理由を聞くと、「我慢できないほどの痛み」(40.0%)、「生活に支障が出た」(40.0%)、「病気が心配になった」(33.7%)など、かなり深刻な状況で受診した様子が見られました [グラフ15]。

一方、生理痛があるのに病院に行ったことがない人に行かない理由を聞くと、「病院に行くほどの痛みではない」(59.0%)、「市販の鎮痛薬で対処できる」(41.1%)が大きな理由となっています [グラフ16]。

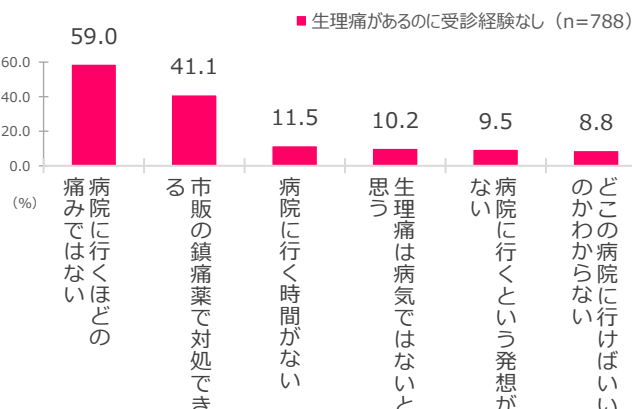
[グラフ14] 生理痛での受診経験



[グラフ15] 生理痛で受診した理由 (複数回答)



[グラフ16] 生理痛で受診しない理由 (複数回答)



TOPIC 3

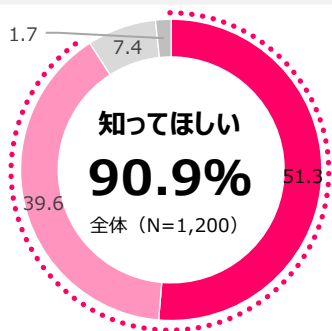
女性の9割が生理痛を「知ってほしい」「理解してほしい」

◆ 女性の9割が「生理・生理痛が重くて日常生活に支障を来すほどの人がいることを知ってほしい」「生理・生理痛に悩んでいる人がいるという事実が理解されてほしい」と望んでいる

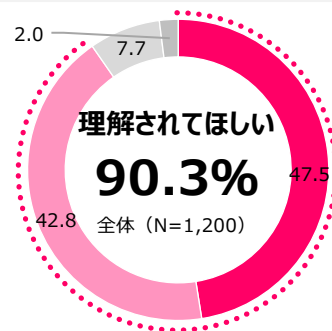
調査対象である生理がある女性1,200人に、生理や生理痛に対する気持ちを聞きました。

『生理・生理痛が重くて日常生活に支障を来すほどの人がいることを知ってほしいか』を聞いたところ、51.3%が「とてもそう思う」、39.6%が「ややそう思う」と答え、女性の90.9%が生理・生理痛が重くて日常生活に支障を来すほどの人がいることを知ってほしいと望んでいることがうかがえます [グラフ17]。また、『生理・生理痛に悩んでいる人がいるという事実が理解されてほしいか』を聞くと、47.5%が「とてもそう思う」、42.8%が「ややそう思う」と答え、女性の90.3%が生理・生理痛に悩んでいる人がいるという事実への理解を望んでいます [グラフ18]。

[グラフ17] 生理・生理痛が重くて日常生活に支障を来すほどの人がいることを知ってほしい



[グラフ18] 生理・生理痛に悩んでいる人がいるという事実が理解されてほしい



■とてもそう思う ■ややそう思う ■あまりそう思わない ■まったくそう思わない

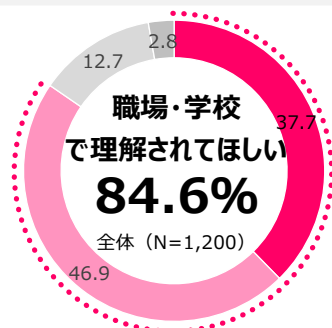
◆ 「生理・生理痛の悩み」 職場や学校に理解してほしい84.6%、家族・パートナーに理解してほしい83.6% 周囲の理解不足ゆえの思いか

前述の1,200人に職場や学校で、生理・生理痛の悩みが理解されてほしいかを聞くと、37.7%が「とてもそう思う」、46.9%が「ややそう思う」と答え、84.6%が職場や学校で生理・生理痛の悩みへの理解を望んでいました [グラフ19]。

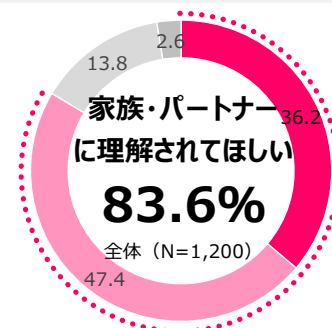
また、家族やパートナーに生理・生理痛の悩みが理解されてほしいかと聞くと、36.2%が「とてもそう思う」、47.4%が「ややそう思う」と答え、83.6%が家族やパートナーにも生理・生理痛の悩みを理解してほしいと答えています [グラフ20]。

学校や職場だけでなく家族やパートナーに対しても、生理や生理痛に対して「理解してほしい」と感じていることが明らかとなりました。

[グラフ19] 職場や学校で生理・生理痛の悩みが理解されてほしい



[グラフ20] 家族やパートナーに生理・生理痛の悩みが理解されてほしい



■とてもそう思う ■ややそう思う ■あまりそう思わない ■まったくそう思わない